

# 副作用被害か、利便性か

## 医薬品の市販解禁は閣議決定済み

薬局・薬店以外でも医薬品を販売しているという規制緩和に対しては、薬剤師会、医薬品小売商業組合、薬種商協会などと共に、薬害被害者、SJS患者も強く反対してきた。

十月八日の厚生労働省の「医薬品のうち安全上特に問題が無いもの選定に関する検討会」では、日本チエーンストア協会、日本フロンチャイスチエーン協会の賛成意見の他は、前記五団体それぞれ反対を表明した。

ところが、意見陳述人および参考人（製薬メーカー）からの意見聴取が終わったところで、座長から薬局・薬店以外での医薬品販売解禁は閣議決定済みである旨の発言が飛び出し、出席者一同から大きなおどろきが起こった。「毎日新聞」(二〇〇三・十・九朝刊)によると、政府は今年中の薬局・薬店以外での「安全上特に問題のない医薬品」の販売解禁を閣議決定しており、検討会で十一月中に対象品目を選定する予定であることが判明した。

この問題については、厚生労働省が慎重対応を主張しているものを受け取ってきたが、この検討会に出席した厚生労働省の医薬食品局長および審議官からはかなりの説明もなされなかった。

### 製薬メーカー（参考人）の立場

内容は同じであっても、医療機関向けと一般市販向けの説明（貼付文書、外箱）を区別して「ベスト・マッチング」を実現しようとしている。反省と改善を求めたいをええ、と必論論への反論が提起された。

### 薬剤師必読論への反論

一部業員から医薬品販売時点での薬剤師の情報提供へ対応姿勢について、反省と改善を求めたいをええ、と必論論への反論が提起された。

### 厚生省への副作用報告の徹底

厚生省への副作用報告の徹底



厚生労働省への副作用報告（今年度七月二十日付の実施）を各医薬品会社に徹底するよう公約し、これは当然一般販売業者にも義務化すべきものとする主張をたじろぎの患者の高く評価している。

（以下患者の会を代表し意見陳述した湯浅和恵さんの発言要旨）

意見陳述人 湯浅 和恵  
「医薬品の副作用について、スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）を発症した私たちが、今回の医薬品に関する一連の規制緩和を絶対に受け入れることはできません。」

SJSは、医薬品が起因の副作用の中で最も重症なものですが、いままでの詳細なメカニズムは不明なままです。そのため予防法はなく、必要な薬なども発症してしまう。そして初期症状が普通の風邪などと非常に似ているため、早期診断早期治療がもたらす重症化への目的、肝臓などへの後遺症が残った、死亡する人もおられます。

市販薬は医師の処方薬よりも強くなることが、弱くから安全だと考えている人もおられますが、実際は幅広いヘパトローンを成分が含まれているため、それだけ危険性が高く、消費者に判断されるものではないのです。それにより、一口消化鎮痛剤、解熱剤といったわずかな成分を適確に判断できないものや、常用薬との併服による重篤な副作用の危険性をいかに防げるかの問題が起きます。それを消費者が選択をまかなうのは危険の上で、薬剤師などの専門家の判断は不可欠なはずです。

SJS患者の会も、今までの一貫した薬は適切に使用しながら重大な副作用や事故が起かぬよう告知徹底しようとする議論がなされてきました。なぜかといえ、我が国は先進国ではないのです。安全な薬を、安全に提供する必要があります。



励ます会々員の兼子 富子さんが、再度放射線治療のため入院され、その直前までバザーに出す品を編んで寄付して下さいました。それを聞いた湯浅さんが、仲間呼びかけ、見えない目で作った千羽鶴を届けて下さいました。

# 歯科医師会の理解と支援を要請

「この患者の会」小宮豊一代表や湯浅和恵さん、なごびに北村采昭さん他「励ます会」は日本歯科医師会を訪問。(九月十八日)歯科医師会においでして、その危険性と救済制度の周知徹底に理解と支援を要請し、協力表明をいただいたことができた。

## 歯科治療中の発症危険性

●歯科医師からの「この歯の医療品から発症しているのか」「この対応治療したらいいのか」という「JSS」に関する問い合わせが増えています。●歯科治療中に抗生物質などを投与する方もあり、万が一、発疹などがあつたときの早期判断・早期治療など適正な処置を要請。●JSSの実態などについて、NHKテレビ「クロスアップ現代」(六月十二日放映)のビデオ、写真、資料で説明。

## 救済機構への申請に対する協力要請

●患者は医療ミスを追及しているわけではないので救済機構へ提出する投薬証明書作成などには協力していただきたい。●歯科医師会での諸会合で、JSS患者の実態と救済機構の周知徹底をほかの同道に伝えていただきたい。

## 歯科医師会からの協力意向

●発症時点での初期対応が重要であることは認識している。●医師が医療ミスをいかに敏感になつてほしい。●歯科医院でも医療機関として当然投薬に関するJSSの危険性は全員に周知徹底してほしい。●七月から医薬品の副作用について厚労省報告が開始になった。●広報部でもホームページをみて効果的に周知徹底してほしい。「患者の会」も協力してほしい。

歯科医師会様、早稲十一月十五日の同会機関紙「口歯広報」に「患者の会」の経緯記事とこの投稿原稿を掲載する旨をお知らせし、(詳しくは別紙「経緯記事」参照)

# 「ジョンソン通信」vol.5

## かんさい発

「患者の会」関西ブロックより、初めてジョンソン通信の「かんさい版」を発信した。

## 【目次】

「あいらび」(古園直江)

【特集】京都府V医科大学眼科府民講座

角膜移植で光りをもう一度「スマイルフランス・ジョンソン症候群」(植村和代)

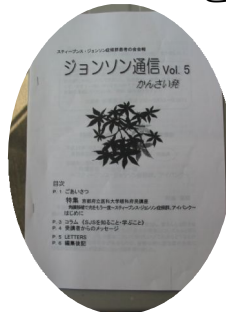
はじめに(岡島喜謙)

JSSを知ろう(宇がら)

保護者からのメッセージ

JETTERS

編集後記



京生園池田駅前公園広場

ハザー会協賛風景



## ハザーのご報告

11月22日ハザー当日は天候にも恵まれ、ご協力いただいた沢山の方々のおかげで、大成功!でした。

品物を提供して下さった方 45人  
 お手伝いをしてくださった方 13人  
 収益金 154,180円 (現金カンパ 28,000円を含む)  
 広報チラシ配布 250枚

ご協力ありがとうございました。

# JSSの視覚障害者にも朗報

## 歯根部利用人工角膜が初めて成功!

かねてよりJSS患者救済活動に参加してきた小林輝夫医師からの情報によれば、患者自身の生きた歯を用いた人工角膜移植が日本で初めて成功したこと。「口鏡メニカル」誌二〇〇三九月号に掲載されたもの(要旨を以下にまとめます。)

## JSS患者への人工角膜移植の現状

JSSが重症化するに従って涙腺がおかされ、ドライアイとなり、角膜がおかされ失明する。十数回も角膜移植したのに成功しない、と患者は口をそろえて訴える。極度のドライアイには角膜移植が適応しないこと(苦しみ)です。

## 歯根部利用人工角膜移植の初成功

口鏡メニカル誌によると、近畿大 福田 昌彦眼科講師は、レンズ基台の製作を担当する同大学 口腔科 濱田 傑助教授との協働による、今年六月ついに日本で初めて歯根部利用人工角膜(OOKP)移植手術に成功した。その患者の左眼視力が1.2、視野が40×45%にまで回復した。

## 新技術への期待

現状では、緑内障や視神経の障害がないこと、手術後口腔内に影響が出ることなく、また制約があること(否めない)。今後、手術技法の改善・進歩と普及により、多くの重症視覚障害者への福音となるよう期待したい。

総選挙の直後、「患者の会」と「励ます会」は「これまでお世話になった厚労省官公庁の方々にお礼を述べると同時に、今後の協力をお願いしました。」